

大阪城

2023
1/23
(月)
14324
号

全港湾
西成分會

2247
6647-
4947

大寒で2/4ごろまで10日ほどは9度とマイナー
一度とか寒の日が続きます。春の街にたどり
着くには越えなあかん大寒の峠のようです。
ウィルスの変異株により、最近は一週300と500人の
死者が出ており、それも高齢者が多数だと
いわれています。政治は感染症の結核などと
同じ2類の法的措置づけをインフルエンザなどの
軽い分類に変えようと動いています。これからは
自分で金をはらって治せという方針です。
この動向には注意をはらうべく知って置く活動が
殺されないうためには大切だと思います。

今日から通常国会のようまで15日由。6/21まで
新年度の14兆円予算算や60の法律などについて
議論するようです。その中の4/9、4/23の
統一地方選挙、知事市長の選挙があります。
地下鉄の出口・入口で演説やビラまきも熱心な
おびてまっています。岸田政権は5/19と21の
広島でのG7サミットに力を入れているようです。
米・英・仏・独・伊・カナダ・日本の7ヶ国ですが
地球はそれ以外の国が国内総生産(GDP)や人口、
科学技術など大きく力をつけG7をミスっています。

財政は火の車、基本踏み外した日銀 膨張予算、「禁じ手」犯す日銀、その罪をただす年に

歳出の大盤振る舞いで、財政は火の車がさらにひどくなる。

国債の新規発行額が35兆6000億円で、発行残高は2022年度末に1000兆円を突破し2023年度末には1068兆円程度になる見通しだ(我が国の財政事情 財務省主計局 2022年12月)。

これに伴い、国債の償還と利払いに充てる2023年度の国債費は25兆円にのぼる。2022年度よりも9000億円以上多くなる。12月末に日本銀行が長期金利の変動幅の拡大容認を決め、事実上の利上げに踏み切ったことで金利上昇が起きれば、国債費はさらに増大する可能性がある。

巨額の財政赤字にもかかわらず、金融市場で国債の暴落や長期金利の急上昇が起きていないのは、何と言っても日銀による空前の国債買い支えのおかげである。もしそれがなければ、国債の暴落あるいは金利急騰が起きて、市場の混乱を收拾するためにも政府が予算編成では国債発行を必要最小限にとどめる努力をするし、歳出も野放図な拡大はできないはずだ。ところが今は市場のチェックが働かないので、国債発行に歯止めがかからない。

日銀は中央銀行の基本原則を踏み外してしまった。

2023年1月9日「論座」抜粋 小此木潔 ジャーナリスト、元上智大学教授

「軍事費を倍増する」「子供対策の予算をふやす」とか言うのはいいのだが、財源は?と問われて「増税」を匂わすと「反対の声」。赤字国債で取り繕う案が上がるがまともではないと思う。